

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会 第4回定時社員総会

日 時 2023年6月21日 14:00~14:50

会場 AP虎ノ門/Zoomによるオンライン配信

議事

- 1.開会の辞
- 2.会長挨拶
- 3.出席会員の確認
- 4.議案

第1号議案 2022年度事業報告

第2号議案 2022年度決算報告

第3号議案 2023年度事業計画(案)

第4号議案 2023年度収支予算(案)

第5号議案 理事・監事人事(案)

その他・会員提案事項

5.閉会の辞



第1号議案 2022年度事業報告

2023年3月31日 一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会 会長 隅田 英一郎

- 1. コロナ後の向けて年次大会をハイブリッド開催し、新規にオンライン・セミナーを立ち上げました。
- 2. 30周年事業で整備した過去のAAMTジャーナル記事を紹介する『温故知新』シリーズを始めました。
- 3. イベントの集客や各事業にかかわる告知等をプレスリリースやSNS広告でサポートしました。
- 4. AAMT長尾賞を1者に、長尾学生奨励賞を2者に授与しました。
- 5. 完成した**MTユーザガイドを公開**いたしました。
- 6. 法人強化の目的で委員会規定を整備しました。
- 7. 秋にマカオで実施する国際会議MTサミットの実行委員会を組織し本格的な準備を開始しました。
- 8. 学生向けに国際会議オンライン参加支援制度を新設し、国際会議AMTA2022を対象に実施しました。
- 9. MTPEの**ISO18587にかかわる供給者適合宣言支援ガイドライン**を作成し会員限定提供を開始しました。
- 10. AAMT/Japio特許翻訳研究会のメンバーを大幅に増強し、特許情報シンポジウムを開催しました。



1. イベント委員会

当委員会は、今年度も主にアジア太平洋地区において機械翻訳の技術開発、利用促進のために必要な情報の収集および発信の場として、イベントを企画運営した。具体的には、上期には年次総会の運営支援を行い、下期からは年次大会(2022年度は12月/AAMT 2022, Tokyo) および新たにオンラインセミナーを企画運営した(全三回)。

2022年度の活動は下記のとおりである。

1. 定時社員総会の運営

昨年度同様、定時社員総会の当日運営を支援した。

2. AAMT 2022, Tokyoの開催

今年度も、年次大会を開催し、AAMTの活動を協会内外に発信した。本年度は新しい取り組みとして初めて会場開催とZoomでのオンライン同時配信を併用したハイブリッド形式で実施した。

3. AAMTセミナーの企画/運営

事業年度開始時には予定されていなかったが、オンライン形式での情報発信の重要性が増し続けている昨今の事業環境を鑑みて、下期よりAAMTセミナーを企画運営した。



編集委員会

年2号の発行号数を目標としてAAMTジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャー ナルとして発行した。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者と AAMTの利益が最大化することを目指した。また、「法人会員PR」として、機械翻訳に関して、法人 会員からPR記事を受け付けた。



広報委員会

1. ウェブサイト

広報を本協会における重要な情報発信手段と位置付け、AAMTジャーナルの早期公開を行い、会員 特典の価値を高めた。また、AAMTの新規事業であるAAMTセミナー、MTユーザーガイドや、ISO 18587供給者適合宣言支援事業について時差なくサイト上で公開した。

2. SNS

Twitter、Facebookでの発信を続け、速報性という特徴を活かして、(特に協会非会員に向けて) 協会のイベント案内などの情報提供や会員・一般との丁寧なコミュニケーションの手段として利用し た。また。有料の広告を使用し、広くAAMTの活動を周知した。

3. その他広報活動

薬事日報に広告掲載を行い、医薬関連企業にAAMTの周知活動を行った。イベントや新規事業オン 成果を都度プレスリリースを発信した。イベントごとに関連団体などにメール発信を行い、集客活動 を行った。

また、AAMT創立30周年の記念事業の一環として、過去のAAMTジャーナルをすべてPDF化し、サ イトに公開した。また、関連イベントの際にチラシの配布を行った。



長尾賞委員会

2022年度は、第17回AAMT長尾賞および第9回AAMT長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選考の活動 を行い、授賞式と受賞講演を実施した。また、受賞記念論文をAAMTジャーナルに掲載した。

- ●第17回AAMT長尾賞選考委員会による選考を行い、1件の受賞が決定した。
- ●第9回AAMT長尾賞学生奨励賞選考委員会による選考を行い、2件の受賞が決定した。
- ●総会に伴って、受賞の発表および受賞式を実施した。(2022年6月23日)
- ●第1回AAMTセミナーにおいて受賞記念講演を開催した。(2022年9月28日)
- ●AAMTジャーナル No.77に受賞記念論文が掲載された。(2022年12月15日)



5. MTユーザーガイド委員会

機械翻訳(MT)を活用すると様々なメリットを享受できますが、一方でMTは完璧ではありません。MTを上手に使うためにMTを正しく理解することが肝要です。 AAMTは、専門家(開発者、翻訳者、学識経験者、翻訳会社の実務者等)を広く集め、AAMT配下の委員会を組織し、機械翻訳を正しく使うための知識をMTユーザーガイドとしてまとめ、ホームページで公開するとともに機会を捉えて配布してきました。

<u>https://www.aamt.info/act/MTuserguide</u>より無料でダウンロードできます。会員の皆様には、**是非入手していただき、関係者に再配布いただけますよう**お願いいたします。

機械翻訳を安全に、便利に



機械翻訳にかかわるすべての人のためのユーザーガイド 無料ダウンロードはこちらから

MTユーザーガイド

6. 法人強化委員会

一般社団法人として、組織運営が円滑に進められるように委員会規程を作成し、11月の理事会で 承認を得た。その検討の際に、一般社団法人化後に設置された委員会等の整理・確認を会長及び事務 局長と行い、9月の理事会に委員会規程(案)とともに諮った。



国際化対応

AAMTをAsia-Pacificの組織として国際化していく方策の1つとして、2014年以降、日本の研究者 が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ(Workshop on Asian Translation; WAT) をAAMTの国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2018、 2019、2020、2021に引き続きCOLING 2022(韓国慶州2022年10月)の併設ワークショップとし て開催されたWAT2022をスポンサーとして支援した。WAT2022ではインド諸語を含む24の言語を 対象とした15のshared taskが行われ、世界中から8チームが参加した。コロナ禍において久しぶり のin personを含むハイブリッド開催であり、現地参加者もオンラインでの参加者もいて議論が盛り 上がった。他にも中国、シンガポール、インド、フィンランドなどからの参加があり、国際化がより 進んだワークショップとなった。

また、AAMTが幹事組織として2023年9月4日~8日にMacauで開催するMT Summit 2023につい て、AAMT隅田会長がGeneral Chair、AAMT理事が主要committeeのchairを務める体制を整え、現 地準備委員長のMacau大学Derek Wong教授とも密に連絡をとって順調に準備を進めてきた。2022 年12月にはMT Summit 2023のウェブサイトを立ち上げ、Call for Papers、Call for Workshop and Tutorial Proposals、Call for Sponsorsを発行した。その後も月1回程度の準備委員会を継続し て開催している。



8. 学生学会参加サポート事業

COVID-19の影響により国際会議のオンライン開催・ハイブリッド開催が続いているが、出張を伴 わない形で比較的安価に参加ができるようになったという利点も生まれたと言える。2022年度は試 験的な試みとしてIAMT関連の会議である AMTA にオンラインでの聴講参加を希望する学生を若干名 募り、会議参加費をAAMTから補助する施策を実施した。

AAMTフォーラムや関係学会のメーリングリスト等で告知を行い、7月中旬から3週間の募集期間で 1名から応募があり、当該学生が本件補助を受けて会議にオンライン参加し、AAMTジャーナルに参 加レポートを寄稿した。

Copyright © AAMT All rights reserved.



9. ISO 18587供給者適合宣言支援事業

機械翻訳の精度が継続的に向上している中、産業界では機械翻訳出力を人手で修正するポストエ ディット業務が普及している。昨年度、当協会では、WGを設置して、ISO/IEC 17050-1: 2004(JIS Q 17050)に基づくISO 18587:2017の供給者適合宣言を支援するガイドラインを策定し て公開した。当協会の会員であれば、無料で閲覧できるようにした。

日本国内には認証取得の支援機関が存在しないため、国際標準規格へ準拠する機会が制限されてい る。

当協会の策定したガイドラインを活用することにより、希望する会員が、世界市場において競争力を 維持できるようになり、結果としてポストエディット延いては機械翻訳の普及を促進できるようにな ることを実現してゆく。

策定後の当事業年度では、WG自体は解散とするが、利用者からのフィードバックを元に、必要に 応じてガイドラインの修正や提供方法の改善などを検討する。



10. AAMT/Japio特許翻訳研究会

知財のグローバルな流通が加速するにつれ、特許業務の多言語化が進展し、その翻訳の需要も急速 に高まっている。このような状況の中で、本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械 化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構(Japio)からの委託をうけ、特許の 機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に活動して いる。

2022年度は機械翻訳をはじめとする自然言語処理分野から新たに7名の新任委員を迎え、特許機械 翻訳の改善に繋がる諸課題を対象とした幅広い研究テーマを扱い、委員による研究発表を行う会合を 6回開催した。

また、2023年2月には第7回特許情報シンポジウムを開催し、知財庁・機械翻訳ベンダ・機械翻訳 ユーザ・アカデミアからそれぞれ講演者をお招きし、特許情報処理・特許翻訳に関する情報交換と議 論を行った。

さらに、2020年度に開始した特許機械翻訳に関するサーベイ論文が2022年9月に出版(オープン アクセス)され、現在利用可能な技術をまとめるとともに、今後の特許翻訳に求められる技術の方向 性を示した。



協会活動報告 (2022年4月~2023年3月)

Copyright © AAMT All rights reserved.

予算理事会

2023年3月23日

第3回社員通常総会

2023年6月21日

通常理事会/臨時理事会

- 2022年6月23日(2022年度) 臨時理事会)
- 2022年7月20日(2022年度 通常理事会) 第1回
- 2022年8月10日(2022年度 臨時理事会)
- 2022年9月21日(2022年度 通常理事会) 第2回
- 2022年11月16日(2022年度) 第3回 通常理事会)
- 2023年1月18日(2022年度 第4回诵常理事会)
- 2023年3月23日(2022年度 第5回通常理事会)



1. イベント委員会

新型コロナの感染拡大防止のため、リモートワークを推進した結果、イベント委員会の活動も SlackやZoomを活用して実施した。

■ 2022年6月度(2022年度第1回)

- 1. 本年度年次大会の開催形態について
- 2. 年次大会の役割分担(担務)
- 3. 年次大会の登壇者/講演内容候補
- 4. セミナー委員会の活動について

■ 2022年7月度(2022年度第2回)

- 1. 本年度年次大会の開催形態について
- 2. 講演者候補について
- 3. セミナー委員会の活動について

■ 2022年8月度(2022年度第3回)

- 1. 公募募集について
- 2. 講演者候補について
- 3. スポンサー募集について
- 4. 会場の利用方針について(スポンサープレゼン・展示など)
- 5. 参加費用について
- 6. セミナー委員会の活動について

■ 2022年10月度(2022年度第4回)

- 1. 公募募集について
- 2. 展示について
- 3. スポンサーについて
- 4. 講演者候補についてすべて確定

■ 2022年11月度(2022年度第5回)

- 1. 当日運営について
- 2. 公募募集について
- 3. 展示について
- 4. スポンサーについて
- 5. 懇親会について
- 6. セミナー委員会の活動について

■ 2022年12月度(2022年度第6回)

- 1. AAMT年次大会の振返りについて
- 2. 次年度の年次大会実行委員の体制について 展示 について
- 3. 1月セミナーについて



AAMT 2022, Tokyo ~機械翻訳最前線~

- 2022年12月1日【年次大会】
- 1. 9:30 9:40 ◎開会挨拶
- 2. 9:40-10:20 ◎招待講演① 日本語を含む言語対における制約付き翻訳タスクの近況
- 3. 10:20-11:00 ◎招待講演② NICTにおける自動『同時通訳技術』のご紹介
- 4. 11:00-11:30 © Back to Asia: MT summit 2023 Macau (MT summit 2023 Steering committee)
- 5. 11:45-12:25 ◎ダイヤモンドスポンサーランチョン(3件同時開催)
- 6. 12:35-13:00 ◎ゴールドスポンサーランチョン(2件同時開催)
- 7. 13:15-15:15 ②公募セッション(7件)
- 8. 15:15-15:30 ◎休憩
- 9. 15:30-17:00 ◎パネルディスカッション「AAMTガイドラインに基づくISO18587 供給者自己適合宣言のススメ」
- 10.17:00-17:10 ◎閉会挨拶
- 11.17:30-19:30 ◎懇親会
- ●開催方式:会場でのリアルイベント/オンライン配信のハイブリッド形式

上記日程にて「AAMT 2022, Tokyo 〜機械翻訳最前線〜」と、会場でのリアル懇親会を開催した。本事業年度ではコロナ禍で無償で実施していた年次大会を有償開催に戻し、展示ブースも会場で設置した。初めてハイブリッド形式での開催であったが、関係者を含めて約160名が参加をし、コロナ前の2019年度に有償で開催した年次大会とほぼ同じ参加者数となった。協賛企業のランチタイムウェビナーでは、会場参加者向けに、ランチョン形式でのウェビナー/セミナー



AAMTセミナーの企画/運営

事業年度開始時には予定されていなかったが、オンライン形式での情報発信の重要性が増し続けている昨今の事業環境を鑑みて、 下期よりAAMTセミナーを企画運営した。

1. 第17回AAMT長尾賞/第9回AAMT長尾賞学生奨励賞 受賞記念講演

■第17回 長尾賞 受賞者講演:ニュースを対象とした日英機械翻訳システムの研究開発 発表者:後藤功雄氏(NHK)

■ 第9回 長尾賞 学生奨励賞 受賞者講演①: Expanding the Applicability of Machine Translation

発表者:森下睦氏(東北大学大学院情報科学研究科/現 NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

■ 第9回 長尾賞 学生奨励賞 受賞者講演②:学習時と推論時における入力データの特徴の違いを考慮したニューラル機械翻訳 モデルの学習手法

Copyright © AAMT All rights reserved.

発表者:美野秀弥氏(東京工業大学情報理工学院/現 NHK放送技術研究所)

参加者数:約100名(関係者含む)

2. 理工系の英語論文執筆における課題とAI自動翻訳ツールの活用

時:2023年1月11日(水曜日)14:00~15:30 日

師:西山聖久氏(タシケント国立工科大学副学長・教授 博士(工学)

参加者数:39名(関係者除く)

3. 海外投資家を引き付ける英文IR コストや時間をかけない自動翻訳の活用

~日本語のみの開示で公平・公正・適時という開示の原則に沿っていると言えるか~

時:2023年3月9日(水曜日)14:00~15:30 8

師:西村賢治氏(ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社 常務執行役員広報・IR室長)

参加者数:67名(関係者除く)



2. AAMT/Japio特許翻訳研究会

- 2022年4月度(2022年度第1回)
 - 1. 2022年度の研究活動について
 - 2. 2022年度の特許情報シンポジウムについて
 - 3. 研究計画について
 - 4. サーベイ論文について
- 2022年6月度(2022年度第2回)
 - 1. 研究計画について
 - 2. サーベイ論文について
 - 3. 新任委員の研究紹介 (岡崎委員)
 - 4. 2022年度の特許情報シンポジウムについて
- 2022年9月度(2022年度第3回)
 - 1. サーベイ論文について
 - 2. 新任委員の研究紹介(荒瀬委員)
 - 3. 2022年度の特許情報シンポジウムについて
- 2022年11月度(2022年度第4回)
 - 1. サーベイ論文について
 - 2. 新任委員の研究紹介 (渡辺委員)
 - 3. 2022年度の特許情報シンポジウムについて
 - 4. 2023年度のMT Summitについて

- 2022年12月度(2022年度第5回)
 - 1. サーベイ論文について
 - 2. 新任委員の研究紹介(小町委員)
 - 3. 2022年度の特許情報シンポジウムについて
 - 4. 2023年度のMT Summitについて
- 2023年3月度(2022年度第6回)【予定】
 - 1. 新任委員の研究紹介
 - 2. 2022年度の特許情報シンポジウムについて
 - 3. 2023年度の活動計画について
 - 4. 2023年度のMT Summitについて
- 第7回特許情報シンポジウム(2023年2月20日)
 - 日本国特許庁 名和様
 - 中国特許庁 曹様、張様
 - クロスランゲージ 高橋様
 - 正林国際特許商標事務所 正林様
 - 日本放送協会 後藤様
 - 静岡大学 狩野様
 - 研究会報告(須藤副委員長)



3. 編集委員会

- 編集委員会をオンラインで実施することにより、迅速な編集作業を実現している。
- No.77 (2022年12月発行) を発行した。
- No.78(2023年6月発行)を発行予定



4. 広報委員会

■ 2022年年6月度

1. AAMTジャーナル会員向けサイトを公開した。

■ 2022年年7月度

- 1. AAMT創立30周年記念の一環として、過去のAAMTジャーナルをPDF化し公開した。
- 2. 「学生向け国際会議オンライン参加支援 (AMTA 2022)」のページを公開した。
- 3. AAMT長尾賞とAAMT長尾賞学生奨励賞の選 考結果のページを公開した。

■ 2022年年8月度

- 1. 「ISO 18587 供給者適合宣言支援」に関するページを公開した。
- 2. セミナーページを公開し、第一回セミナーページを公開した。
- 3. セミナーの集客のための広報活動をおこ なった。

■ 2022年年9月度

- 1. 「MTユーザーガイド」のページを公開し、広報活動をおこなった。
- 2. MTガイドと、年次大会のプレスリリースを発出し、SNS広告やメールなど広報活動をおこなった。

■ 2022年11月度

- 1. ISO 18587 の「供給者適合宣言」を行うため のガイドラインのページを作成し公開した。
- 2. 第2回セミナーページを作成し、SNS広告や メールなど広報活動をおこなった。

■ 2022年12月度

1. MT Summit XIXについての広報活動を行った。

■ 2023年1月度

1. 第3回セミナーページを作成し、SNS広告や メールなど広報活動をおこなった。

■ 2023年3月度

1. 自動翻訳シンポジウムにおいて、MTガイドラインのフライヤーを参加者に配布した。



5. 長尾賞委員会

- 2022年3月度
 - 1. 第17回AAMT長尾賞および第9回AAMT長尾賞学生奨励賞の募集を開始した。
- 2022年4月度(2022年度第1回)
 - 1. 第17回AAMT長尾賞選考委員会および第9回AAMT長尾賞学生奨励賞選考委員会を設置した。
- 2022年5月度(2022年度第2回)
 - 1. 第17回AAMT長尾賞選考委員会による選考を行い、下記1件の受賞が決定した。
 - NHK日英機械翻訳開発プロジェクト
- 2022年5月度(2022年度第3回)
 - 1. 第9回AAMT長尾賞学生奨励賞選考委員会による選考を行い、下記2件の受賞が決定した。
 - 東北大学大学院情報科学研究科 森下睦さん(現 NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
 - 東京工業大学情報理工学院 美野秀弥さん(現 NHK放送技術研究所)
- 2022年6月度
 - 1. 総会に伴って受賞式を実施した。
- 2022年9月度
 - 1. 第1回AAMTセミナーにおいて受賞記念講演を開催した。
- 2022年12月度
 - 1. AAMTジャーナル No.77 に受賞記念論文が掲載された。



■ 第17回AAMT長尾賞受賞式・記念講演会

• 受賞者

NHK日英機械翻訳開発プロジェクト

・ 受賞理由:

英語ニュース制作時間短縮に向けた支援ツールとしての機械翻訳システムの開発



NHKでは、外国人向けに多くの英語ニュース・番組を発信しているが、日本語の原稿・台本を人手で翻訳して制作してきたため、発信までに時間がかかることが課題であった。制作時間を短縮するため、2017年頃から「日英機械翻訳システム」を開発しており、ニュース制作の現場において利用され、作業の短縮化、効率化を実現し、英語ニュースを迅速に視聴者に届けることを実現した。高品質なニュース翻訳を実現するために、人手翻訳による100万文対規模の日英ニュース対訳コーパスを開発し、さらに、日付表現処理や、用語翻訳、様々な対訳データから学習するための手法、文脈を考慮した機械翻訳モデルの研究・開発を行っており、高精度ニュース機械翻訳の実現に導いている。特に100万文対規模の対訳コーパスの開発は他には真似のできないものであり非常に高く評価できる。ニュースという公共性が非常に高い分野での先進的かつユニバーサルな取り組みであり、まさにAAMT長尾賞にふさわしい。



■ 第9回AAMT長尾賞学生奨励賞

・ 受賞者1:

東北大学大学院情報科学研究科 森下睦さん(現 NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

· 受賞対象論文:

東北大学 鈴木潤教授の指導のもとに、2021年度東北大学の博士論文としてまとめられたものである。「Expanding the Applicability of Machine Translation」

・ 受賞理由:

本論文は、現代の機械翻訳において重要な大規模対訳コーパスの構築と、特定ドメインへの適応を中心に、機械翻訳の実用的課題に取り組んだ博士論文である。Webクローリングによって2000万文超の日英対訳コーパスJParaCrawlを構築・公開したことは大きな貢献である。WMT2020、WMT2021においても同コーパスを利用したタスクをオーガナイズしその有用性を実証している。また、機械翻訳のドメイン適応について、クラウドソーシングの活用という新たな試みにより全自動では困難であった精度向上を実現している。以上の理由から本論文は長尾賞学生奨励賞にふさわしいものと考える。

Copyright © AAMT All rights reserved.



・ 受賞者2:

東京工業大学情報理工学院 美野秀弥さん (現 NHK放送技術研究所)

• 受賞対象論文:

東京工業大学 徳永健伸教授の指導のもとに、2021年度東京工業大学の博士論文としてまとめられたものである。

「学習時と推論時における入力データの特徴の違いを考慮したニューラル機械翻 訳モデルの学習手法」

• 受賞理由:

本論文は、機械翻訳におけるドメイン適応と文脈利用に関する研究をまとめた博士論文である。機械翻訳のドメイン適応について、ドメインを表現する詳細なタグを設計・利用する方式を提案し、実験により実用性・有効性を示している。また、文脈利用について、従来原言語側の文脈を与える方法が一般的であったのに対して、露出バイアスを考慮した学習方法により目的言語側の文脈利用も有効であることを示している。本論文は、いずれの実験も網羅的に実施されており、実験結果の信頼性も高い。以上の理由から本論文は長尾賞学生奨励賞にふさわしいものと考える。



6. MTユーザーガイド委員会

- 2022年6月28日(2022年度第1回) 執筆内容の詳細確認
- 2022年7月19日(2022年度第2回)
- 1. 執筆内容の最終確認
- 2. DTPデザインについて
- 2022年9月1日 MTユーザーガイド Ver 1.0 発行
- 2022年9月15日 MTユーザーガイド Ver 1.1発行



7. 法人強化委員会

- 2022年9月度(2022年度第1回オンライン開催)
 - 1. 委員会規程について 9月の理事会提出のための委員会規程(案)の最終確認を行った。 なお、委員会規程の検討は、前年度制定した理事会規程に引き続き委員会内でメールベースで進め、適宜 会長及び事務局長に相談した。



9. 学生学会参加サポート事業

- AMTA 2022オンライン参加支援
 - 被支援者:平岡 裕資(立教大学)
 - ▶ 支援額:10米ドル(学生オンライン参加特別割引価格)



10.ISO 18587供給者適合宣言支援事業

- 2022年6月度(2022年度第1回)
 - 1. WG 設立の背景説明と委員紹介
 - 2. 供給者自己適合宣言について
 - 3. ゴール及びマイルストーンについて
- 2022年7月度(2022年度第2回)
 - 1. 目的およびマイルストーンの確認
 - 2. 議論のポイントの確認
- 2022年8月度①(2022年度第3回)
 - 1. 目的およびマイルストーンの確認
 - 2. 議論のポイントの確認
- 2022年8月度②(2022年度第4回)
 - 1. 目的およびマイルストーンの確認
 - 2. 議論のポイントの確認
- 2022年9月度(2022年度第5回)
 - 1. 文書の完成
 - 2. 議論のポイントの確認
- 2022年11月度(2022年度第6回)
 - 1. モデル企業による内部監査後のフィードバック
 - 2. 今後の流れの確認
 - 3. 年次大会に向けた準備

一般社団法人 アジア太平洋機械翻訳協会 ISO供給者適合宣言支援ガイドライン文書 (AAMTSDC2022-1)

対象規格:ISO18587:2017 「翻訳サービス - 機械翻訳出力のポストエディット - 要求事項」

初版(Ver.1.0)

(Ver.1.0)



2022年度末 (2023年3月31日) 現在の会員数:

法人会員:61法人(2022年60法人、入会4法人、退会3法人)

個人会員:102名(2022年101名、入会17名、退会16名)



第2号議案 2022年度決算報告

一般会計 (1) **収支計算書**

自:2022年4月 1日 至:2023年3月31日

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
収益の部			
1.入会金収入	55,000	38,000	入会 法人3社、個人8名(入会金免除有)
2.会費収入	6,053,000	5,751,000	法人105口、個人102名(うち学生会員4名)
3.イベント収入	2,044,000	1,159,550	年次大会参加費、懇親会費。セミナー参加費
4.協賛金収入	880,000	1,386,000	イベント協賛金収入
5.Japio受託収入	7,000,000	5,196,407	AAMT/Japio研究会受託収入
6.雜収入	0	1,182,359	受取利息、寄付金、IAMT入金
当期収益合計(A)	16,032,000	14,713,316	



科目	予算額	決算額	備考
費用の部			
1.会議活動費	218,800	88,836	理事会、総会懇親会
2.広報費	918,000	1,079,325	HP管理費、広告費
3.事務局管理費	1,690,000	2,008,075	事務委託費、事務局経費
4.他団体交流費	815,000	720,000	JTF、言語処理学会会費。スポンサー費
5.イベント費	1,895,000	1,785,811	長尾賞記念品。総会、年次大会開催経費
6.編集委員会費	120,000	174,541	ジャーナル制作費(印刷、デザイン)
7.租税公課	10,000	10,000	
8.研究会費	7,660,000	5,254,784	AAMT/Japio研究会受託経費
9.新規事業費	950,000	814,035	PEガイドライン。学生支援。セミナー関係。
10.予備費	1,000,000	316,749	ジャーナルバックナンバーデジタル化。MTSummit。名刺代
11.減価償却費	0	80,960	ソフトウェア
当期費用合計(B)	15,276,800	12,333,116	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	755,200	2,380,200	
法人税住民税及び事業税(C)	80,000	80,000	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	675,200	2,300,200	
前期繰越正味財産額(D)	28,946,083	28,946,083	
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	29,621,283	31,246,283	



(2) 正味財産増減計算書

自:2022年4月 1日 至:2023年3月31日

(甾位:田)

		<u>(里1//,円)</u>
科目	金額	
I 経常収益		
1 英田		
1.受取会費	· · · ·	
年会費	5,751,000	
大会金	38,000	
2. 年次大会収益	00,000	
	170.000	
参加費	478,000	
懇親会費	308,550	
協賛金	1,386,000	
0.34.2.4	1,000,000	
3.セミナー収益		
┃ 参加費	373,000	
4.受託収益		
AAMT/Japio研究会受託収入	5,196,407	
nami/Japioy开九云文記以入	5,100,407	
【5.その他収益		
雑収入	1,182,213	
受取利息	146	
★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	140	14 710 010
経常収益計		14,713,316

	科目	<u> </u>	全 額
II 経常費用 1.事業務要会 請稅私等 請稅私手 主 事務委金 課数託 事務委等 事	子 量 _	2,119,784 1,477,810 10,000 713,790 933,400	5,254,784
2. 管印会通消印広接新滅諸租支事ジ記理刷議信耗管告待聞価会税払務々念,費費費費品理宣交図價費公手委一品,費費費の運用。課数託ナリー、要請求。	き き と が と も と も も も も も も も も も も も も も も も	613,955 1,293,926 85,495 37,510 525,625 1,196,700 374,000 25,479 80,960 110,000 10,000 674,090 1,706,600 288,780 40,930	
	費費 計 経常費用 計 当期経常増減額	1,365 12,917 	7,078,332 12,333,116 2,380,200
Ⅰ 経常外収益Ⅰ 経常外費用	経常外収益計		0
	経常外費用計 税引前当期正味財産増 法人税、住民税及び事 当期正味財産増 前期繰越正味財 次期繰越正味財	事業税 加額 産額	0 2,380,200 80,000 2,300,200 28,946,083 31,246,283



(3) 貸借対照表

2023年3月31日

(単位:円)

科目		金額	(十四・17)
I 資産の部			
1.流動資産			
現金	1,350		
普通預金	28,115,187		
未収入金	5,196,407		
前払費用	98,025		
前払会費	60,000		
流動資産合計		33,470,969	
2.固定資産			
有形固定資産			
有形固定資産 計		0	
無形固定資産			
ソフトウェア	404,800		
減価償却累計額	141,680		
	263,120		
無形固定資產 計		263,120	
投資その他の資産			
長期前払費用	17,999		
投資その他の資産 計		17,999	
固定資産合計		281,119	
資産合計			33,752,088
		_	

科目		金額	
II 負債の部			
1.流動負債			
未払金	2,289,492		
未払費用	44,640		
前受会費	29,000		
預り金	62,673		
未払法人税等	80,000		
流動負債合計		2,505,805	
負債合計			2,505,805
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		28,946,083	
当期正味財産増減額		2,300,200	
正味財産合計			31,246,283
負債および正味財産合計			33,752,088



(4) 財産目録

2023年3月31日

(単位:田)

			(単江・円)
科目		金額	
Ⅰ 資産の部			
1.流動資産			
現金	1,350		
普通預金	28,115,187		
三菱東京UFJ銀行①一般	(11,810,773)		
三菱東京UFJ銀行②長尾賞	(678,383)		
ゆうちょ銀行	(857,220)		
AAMT/Japio			
PayPay銀行	(14,768,811)		
未収金	5,196,407		
Japio 受託収入	(5,196,407)		
前払費用	98,025		
前払会費	60,000		
流動資産合計		33,470,969	
1.固定資産			
有形固定資産	0		
無形固定資産	263,120		
ソフトウェア	(263,120)		
投資その他の資産	17,999		
長期前払費用	(17,999)		
固定資產合計		281,119	
資産合計			33,752,088

科目	金額		
Ⅱ 負債の部			
1.流動負債			
未払金	2,289,492		
AAMT/Japio研究会業務委託費	(2,119,784)		
AAMT/Japio研究会謝金	(181,827)		
未払費用	44,640		
前受会費	29,000		
預り金(源泉税)	62,673		
未払法人税等	80,000		
 流動負債合計		2,505,805	
負債合計			2,505,805
正味財産		_	31,246,283



参考資料:説明資料

自:2022年4月 1日 至:2023年3月31日

(単位:円)

科目	決算額	内訳		備考
収益の部				
1.入会金収入	38,000	個人会員入会金	8,000	8名(1000*8)
		法人会員入会金	30,000	3社(10000*3)
2.会費収入	5,751,000	個人会費	490,000	98名(5000*98)
		学生会費	4,000	4名(1000*4)
		法人会費	5,257,000	61法人105口分
				前年度不足分入金含む
3.イベント収入	1,159,550	AAMT2022参加費 会員	140,000	28名(5000*)会場
		AAMT2022参加費 会員	102,000	34名(3000*)オンライン
		AAMT2022参加費 非会員	140,000	14名(10000*)会場
		AAMT2022参加費 非会員	96,000	16名(6000*)オンライン
		AAMT2022懇親会	308,550	
		セミナー参加費	373,000	
4.協賛金収入	1,386,000	AAMT2022協賛金	495,000	ダイヤモンド (会員) 3社 (165,000*3)
			330,000	ゴールド茶菓(会員)2社(165,000*2)
			330,000	ゴールドセミナー(会員)3社(110,000*3)
			165,000	シルバー(会員)5社(33,000*5)
			66,000	シルバー(非会員)2社(33,000*2)
5.受託収入	5,196,407	AAMT/Japio	5,196,407	(財)日本特許情報機構
6.雜収入	1,182,359		1,182,359	受取利息、IAMT入金、寄付金
当期収益合計(A)	14,713,316		14,713,316	



参考資料:説明資料

13 ₽	14 55 55			T
科目	決算額	内訳		備者
費用の部	00 000	W A A 18 #	00 000	\+n= \\ 2400 \\ \mathred{\pi}
1.会議活動費		総会会場費		遠隔会議開催費
2.広報費		WEBサイト HP管理料		HP更新料、レンタルサーバー等
3.事務局管理費		事務経費 通信費		郵便代、ブラストメール、Zoom利用料等
	37,510	事務経費 消耗品費		名刺作成(予備費より)
		事務経費 支払手数料		税務申告、役員登記、振达手数料
		事務経費 印刷費		資料、宛名ラベル等印刷
l		事務局運営費		公益総研事務委託費
4.他団体交流費	720,000	日本翻訳連盟	60,000	
				翻訳祭スポンサー費
		言語処理学会		賛助会費
				スポンサー費
		WAT		スポンサー費
5.イベント費	1,785,811	長尾賞	40,930	
				支払手数料
		l	1,755	消耗品等
		AAMT2022	1,217,045	会場代等
				講師謝礼
			302,500	懇親会費
			19,357	
				支払手数料
		イベントZoomウェビナー	59,545	
6.編集委員会費	174,541	AAMTジャーナル		制作費(印刷、デザイン)
	114,239			バックナンバーデジタル化(予備費より)
7.租税公課	10,000			役員登記収入印紙代
8.Japio受託事業費		受託事業費		AAMT/Japio研究会経費
010011032804383	0,201,101	事務委託費		公益総研事務分
9.新規事業費	814,035	PEガイドライン作成		規格文書、HP掲載
**************************************	011,000	ISO18587関連	60,000	
		IAMT学生支援	1,365	
		AAM Tセミナー		講師謝礼
		nniii 1 C 🔍)		支払手数料
10.予備費	185 000	MTSummit2023	165 000	交換子数料
10.77		無形固定資産		77 18 18 18 18 18 18 18
当期費用合計(B)	12,333,116		12,333,116	
当粉草用百訂(B) 税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	2,380,200		12,000,110	
祝守 町当射正味助圧増成額(A)-(B) 法人税住民税及び事業税(C)	80,000			
本人代任氏代及び事業代(5) 当期正味財産増減額(A)-(B)-8	2,300,200			
<u> </u>	28,946,083			
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	31,246,283	l		



監査報告書

監 報告 査

私たちは一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会の2022年度の収支計算書および正味財産増減計算書、 2023年3月末現在の貸借対照表および財産目録について監査を行いました結果、本協会の2022年度の決算諸 表が適法かつ公平に表示されているものと認めます。

Copyright © AAMT All rights reserved.

2023年5月15日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会





37

第3号議案 2023年度事業計画(案)

2022年4月1日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会会長 隅田 英一郎

- 1. イベント委員会を増員し、また、セミナー委員会を独立させ、対外情報提供を強化します。
- 2. AAMTジャーナルの強化策(広告掲載等)を検討します。
- 3. 広報活動では**プレスリリースやSNS広告**をルーティン化を試みます。
- 4. AAMT事業を継続し強化策を検討します。
- 5. MTユーザガイドの公開・長尾賞・長尾学生奨励賞拡散を続け、皆さんのご意見を集めて、将来の改訂に 役立てます。
- 6. 引き続き法人強化を進めます。
- 7. 秋にマカオで実施する**国際会議MTサミット**を成功させます。
- 8. 学生向けに国際会議オンライン参加支援制度を継続・改良します。
- 9. 供給者適合宣言支援ガイドラインの会員に浸透させます。
- 10. 国際会議MTサミットで**ワークショップを開催**します。



理事の担務を表 1にまとめる。

担務名	担務内容	担当理事(敬称略)
会長	理事会召集、法人業務執行	隅田
副会長	会長補佐	安達、黒橋
事務局長	事務局統括	石川
財務	会計管理	田中(委員長)、永田
広報委員会	ウェブサイト、SNS、広報	石川(委員長)、岩下
編集委員会	AAMTジャーナル発行	内山(委員長)、後藤、出内、園尾
イベント委員会	年次大会 /総会企画・運営	森口(委員長)、菅谷、園尾、長瀬、出内、
セミナー委員会	セミナー企画・運営	石岡(委員長)、中澤、川崎
長尾賞委員会	長尾賞/長尾賞学生奨励賞	二宮(委員長)、黒橋、永田、田中
国際化委員会	協会の国際化、MTサミットの実施	黒橋(委員長)、田中、森口、中澤、内山
法人強化委員会	協会の法人としての強化	小林(委員長)、安達
学会サポート委員会	学会参加他の学生支援	須藤(委員長)、二宮
AAMT/Japio特許翻訳研究会	研究会・シンポジウム・ワークショップ	須藤(副委員長)

[※] 委員会・研究会の構成員は各会で拡張可能(規定参照)



1. イベント委員会

当委員会は、今年度も主にアジア太平洋地区において機械翻訳の技術開発、利用促進のために必要な情報の収集および発信の場として、イベントを企画運営する。具体的には、下期(2022年度は12月/AAMT 2022, Tokyo)に開催している年次大会をその場として位置づけ、業界が潜在的に抱えている課題の共有や情報不足を解消する一助になることを目的とする。年次大会はAAMTの国際化推進を下支えできるような中核のイベントにすべく、発展的、段階的に拡大してゆくことを計画している。また、前事業年度から、通常総会時に実施する招待講演の運営も担う。

2023年度の活動計画は下記のとおりである。

1. 通常総会招待講演の運営

昨年度同様、招待講演の当日運営を担う。

2. AAMT 2023, Tokyo/(またはOnline)の開催

今年度も、年次大会を開催し、AAMTの活動を協会内外に発信する。実施の形態については、昨年度同様ハイブリッド形式での開催を想定する。このイベントでは機械翻訳の活用事例、業界トレンド、技術革新、その他MTに関連する技術領域を対象に、最新の情報をタイムリーに発信する場として位置付ける。会員のみならず非会員の参加者を促すことで、当協会の露出を増やし、会員増につなげることで、業界団体としての発展につなげたい。



2. セミナー委員会

以下を目的として、新たにセミナー委員会を発足し、定期的(年6回目)に機械翻に関する最新情報を発信するためのセミナーを開催する。

- 1. AAMT会員へのメリットの提供
- 2. 新規会員獲得のための知名度向上
- 3. 業界の活性と社会への貢献

活動計画予定:

年6回開催予定:5月、7月、9月、11月、1月、3月

- 5月:隅田会長による「ポストエディットの真実」
- ・7月:バオバブの相良氏による、機械翻訳の活用について(タイトル検討中)
- ・9月: DeepL社による、会社紹介、品質や会社の戦略などについて(タイトル検討中)
- ・11月:情報処理学会の学生による報告会(検討中)
- ・1月、3月はトピック検討中

形式:Zoomによる90分の講演とQ&A、講演後2週間のオンライン配信

新理事(案)である川崎氏だけでなく、新たにプログラム委員として小澤脩斗氏(コニカミノルタジャパン株式会社DXソリューション事業部)にも協力を仰ぎ、運営強化を図る。引き続き、イベント委員長である森口氏、広報委員長の石川氏にも支援いただく。



編集委員会

年2号の発行号数を目標としてAAMTジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャー ナルとして発行する。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者と AAMTの利益が最大化することを目指す。また、「法人会員PR」として、機械翻訳に関して、法人会 員からPR記事を受け付ける。



広報委員会

1. ウェブサイト

引き続き広報を本協会における重要な情報発信手段と位置付け、機械翻訳に関する情報を迅速に集 約し発信できるようにする。

AAMTジャーナルの早期公開を行い、会員特典の価値を高める。

2. SNS

Twitter、Facebookでの発信を続ける。また有料のTwitter広告をイベントごとに流し続けること で、広くAAMTの存在をアピールしていく。

3. その他広報活動

イベントごとにプレスリリースを発出する。また、適切な媒体に広告を出稿する。



長尾賞委員会

2023年度は、2022年度までと同様に、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選 考の活動を行う。また、それらの活動に加えて、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の存在を広 めるために、より効果的な宣伝の方法について検討を行う。



6. 法人強化委員会

一般社団法人として、組織運営が円滑に進められるように規程等の拡充を検討する。



国際化対応

AAMTをAsia-Pacificの組織として国際化していく方策の1つとして、2014年以降、日本の研究者 が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ(Workshop on Asian Translation; WAT) をAAMTの国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2018、 2019、2020、2021、2022に引き続きMT Summit 2023(マカオ、2023年9月)の併設ワーク ショップとして開催予定のWAT2023をスポンサーとして支援する。

また、AAMTが幹事組織として開催するMT Summit 2023(マカオ、2023年9月)について、今 後も滞りなく準備を進め、成功させる。MT Summitの開催を通して、AAMTのAsia-Pacificでの活動 を活性化する契機とする。



7. 学生学会参加サポート事業

COVID-19の影響により始まった国際会議のオンライン開催・ハイブリッド開催については、徐々 にオンサイト開催への回帰が始まっているものの、出張を伴わない形で比較的安価に参加ができると いう面でハイブリッド開催は今後も継続するものと期待できる。

2022年度に試験的に行った AMTA へのオンラインでの参加支援を契機として、2023年度は AAMTを中心に企画運営を行う MT サミットへのオンライン参加を希望する学生への会議参加費のサ ポートを行うことで、AAMTと今後の機械翻訳産業・機械翻訳研究開発を担う学生との接点とする。 補助を受けて参加した学生にはAAMTジャーナルへの参加レポートの寄稿を依頼し、学生への支援と 同時に会員向けのコンテンツの充実を図る。



8. AAMT/Japio特許翻訳研究会

知財のグローバルな流通が加速するにつれ、特許業務の多言語化が進展し、その翻訳の需要も急速 に高まっている。このような状況の中で、本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械 化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構(Japio)からの委託をうけ、特許の 機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に引き続き 活動を行う。

本研究会は、特許機械翻訳の改善に繋がる諸課題を対象とした幅広い研究テーマを扱い、委員によ る研究発表や外部講師を招いての講演を行う会合を年5~6回開催する。研究の成果は報告書として 公開する。

また、AAMTが中心になって企画運営を行う MT Summit 2023 (開催地:マカオ)でのワーク ショップを企画し、国際的な場での特許・技術文書機械翻訳についての情報交換と議論の場を提供す る。



第4号議案 2023年度収支予算(案)

自:2022年4月1日 至:2023年3月31日

単位(円)

科目	予算額	概要
収益の部		
1.入会金収入	30,000	新規入会 法人2口、個人10名を想定
2.年会費収入	5,711,000	法人104口、個人107名(うち学生6名)を想定
3.イベント収入	1,124,500	総会講演会 (非会員) 、年次大会参加費、懇親会費
4.協賛金収入	1,200,000	イベント協賛金
5.Japio受託収入	6,650,000	AAMT/Japio研究会受託収入
6.2023年度提案	660,000	AAMTセミナー
7.雑収入	0	
当期収益合計(A)	15,375,500	

科目	予算額	概要
費用の部		
1.会議活動費	770,000	総会・理事会など
2.広報費	1,035,000	AAMTホームページ管理費、広報活動費
3.事務局管理費	1,760,000	事務委託費、事務局経費
4.他団体交流費	720,000	JTF、言語処理学会の会費、スポンサー費等
5.イベント費	2,100,000	総会、年次大会開催経費
6.編集委員会費	200,000	ジャーナル制作費
7.租税公課	10,000	
8.Japio受託事業費	7,656,000	AAMT/Japio研究会経費
9.各種事業費	170,000	ISO18587。学生支援
10.ソフトウェア償却	80,960	
11.2023年度提案	1,430,000	AAMTセミナー
12.予備費	1,000,000	
当期費用合計(B)	16,931,960	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	-1,556,460	
法人税住民税及び事業税(C)	80,000	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	-1,636,460	
前期繰越正味財産額(D)	31,246,283	
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	29,609,823	



(単位:円)

参考資料:収益の部 詳細

2023年度 収益の部 詳細

自:2022年4月1日 至:2023年3月31日

(単位:円)

科目	予算額	t _j	備考			
17口 了异似			人(口)数	単価	金額	
		法人会員	2	10,000	20,000	
1.入会金収入	30,000	個人会員	10	1,000	10,000	
		学生会員	0	1,000	0	
		法人会員	104	50,000	5,200,000	
2.年会費収入	5,711,000	個人会員	101	5,000	505,000	
		学生会員	6	1,000	6,000	
		総会講演会 会員	-	-	-	
		総会講演会 非会員	50	1,000	50,000	
		総会懇親会 会員		-	-	
		総会懇親会 非会員	40	6,050	242,000	
3.イベント収入	1,124,500	年次大会 会員	30	5,000	150,000	
		年次大会 非会員	20	10,000	200,000	
		年次大会 オンライン参加費 会員	30	3,000	90,000	
		年次大会 オンライン参加費 非会員	15	6,000	90,000	
		AAMT年次大会懇親会	50	6,050	302,500	
4.協賛金収入	1,200,000	AAMT年次大会協賛金	1	1,200,000	1,200,000	
5.受託収入	6,650,000	AAMT/Japio研究会	1	6,650,000	6,650,000	AAMT/Japio研究会受託収入
7.2023年度提案		AAMTセミナー参加費 会員	60	3,000	180,000	
	660,000	AAMTセミナー参加費 非会員	60	5,000	300,000	
		AAMTセミナー参加費 学生会員	60	1,000	60,000	
		AAMTセミナー参加費 学生非会員	60	2,000	120,000	
8.雑収入	0			-	-	受取利息
収益合計	15,375,500					



Page

参考資料:費用の部 詳細

2023年度 費用の部 詳細

自:2022年4月1日 至:2023年3月31日

Copyright © AAMT All rights reserved.

(単位:円)

科目	予算額	内訳			備考
1.会議活動費	770,000	総会・理事会・監事会	会場費	670,000	会場代·Zoom会議費用
	770,000	福利厚生費		100,000	
2.広報費		ウェブサイト	HP管理費	620,000	ホームページ維持管理費
		イベントプレスリリース		165,000	
	1,035,000	広報	ノベルティ作成	50,000	
		印刷費	資料	50,000	
		広告費	バナー広告	150,000	JTFジャーナル
	1,760,000	事務経費	通信費	150,000	郵便、メール配信、サーバー等
			消耗品費	30,000	
3.事務局管理費			支払手数料	250,000	振込手数料、税務申告、役員登記手数料
3. 平仞/月日/4月			印刷費	10,000	
		事務局運営費	事務委託費	1,300,000	公益総研(株)
		雑費		20,000	
	720,000	日本翻訳連盟	年会費	60,000	
4.他団体交流費			スポンサー費	55,000	翻訳祭
		言語処理学会	年会費	50,000	賛助会員費1口
			スポンサー費	55,000	年次大会
		Workshop on	補助金	500,000	
		Asian Translation		300,000	

科目	予算額	内訳			備考
5.イベント費		長尾賞	記念品	50,000	
			支払手数料	5,000	
			雑費	5,000	
	0.400.000	総会等	雑費	100,000	
5.4ペント質	2,100,000	AAMT年次大会	会場・会議室	1,225,000	会場代
			講師謝礼	220,000	
			懇親会費	275,000	
			雑費	220,000	
6.編集委員会費	200,000	AAMTジャーナル	制作費	200,000	
7.租税公課	10,000			10,000	収入印紙
0.1	7,656,000	AAMT/Japio	研究会経費	6,250,000	AAMT/JAPIO研究会受託経費
8.Japio受託経費			AAMT負担経費	1,406,000	公益総研へ委託費用分
9.各種事業費	170.000	PEガイドライン	ISO 18587適合証明支援	50,000	
	170,000	IAMT関連学生参加補助		120,000	
10.減価償却	80,960	ソフトウェア減価償却		80,960	
	1,430,000	AAMTセミナー	講師料	180,000	6回分
11.2023年度提案			委員交流会	50,000	2回程度
		MTSummit	予備費	1,000,000	
			広告宣伝費	200,000	
11.予備費	1,000,000			1,000,000	
総額	16,931,960			16,931,960	

Page

第5号議案 2023年度理事・監事人事(案)

●理事を退任されることとなりました。

山田 優 (立教大学)

●本協会理事の補欠として提案いたします。

川崎健(コニカミノルタ株式会社)



その他・会員提案事項

